

小田原周辺の古代～中世の“鉄”に関する遺構について（概要）

2019. 6. 14. 宮原諄二

はじめに：“鉄”に関連するさまざまな情報

“鉄”を調べる発端は以下のような事柄を知ったからです。南足柄市の岩原地区に“たたらど山・黄金沢・火打沢”などの古地名が残っていること、私の住む久所の長老 椎野寿雄さんから「小さい頃、岩原で砂鉄を採って遊んだ」と聞いたこと、私の経験では酒匂川河口の砂浜では日本の他の地域とくらべても平均以上にたくさんの砂鉄が磁石に付くように感じること、山北の皆瀬川右岸の山間に“鍛冶屋敷”や“鉄”に関連する地名や神社が残っていること、などです。

また南足柄市千津島には鋳物師集団がいて、中世後期から江戸元禄期まで盛んに鋳物が生産されたが、宝永山噴火（1707）で火山灰が48センチ積もって壊滅したこと、お寺の鐘として残っている所もあるが、今では製作物や史料はほとんど残っていないことも知りました。

「角川日本地名大辞典」によれば「文永二年（1256）八月吉日、相州小田原住泰春」と刻まれている鎌倉時代の名刀があるそうですが、本当なのか実物で確認したいものです。また小田原市の鍛冶遺跡としては、酒匂北川端遺跡で遺構が出土していること、そこは江戸時代の酒匂村の「酒匂鍛冶分」と記載されている場所のようです。この他にも中井町の山中で炉跡・鉄滓出土し、湯河原町の鍛冶屋地区（江戸時代の土肥鍛冶村）でも鉄滓が出土しているようです。

1. 「南足柄市タタラド製鉄遺跡」について

「史談足柄」誌をさかのぼって調べてみたら、「南足柄市タタラド製鉄遺跡 調査報告」（窪田蔵郎：「史談足柄 第13集」, 昭和50.3.30）を見つけました。それによると実際に鎌倉時代初めまで岩原の山の中で製鉄の操業が行われていたようです。

2018年6月の合同発表会で偶然にお会いした南足柄史談会の長老 岩田修平さん（94才・小田原市栢山2580-4）に「タタラド製鉄遺跡」についてお聞きしました。話は『南足柄市の小字には「たたらど・かまっちらと（かまどはら）・かんのだいら」などがあり、小字としての「炭焼所」の炭や「たたらど」の土はいずれもたたら製鉄に使う材料を取ったところだ・南足柄の古い小字が書いてある古い地図を持っているから見せてあげるよ・発掘した鉄滓は南足柄郷土資料館にある』とのことでした。

『南足柄市タタラド製鉄遺跡 調査報告』

窪田蔵郎：「史談足柄 第13集」（昭和50.3.30）

【経緯】：昭和25,6年頃 林道補修作業中に鉄滓を発見
昭和48年11月 足柄史談会会員で下見
昭和49年 3月 調査、一部発掘（埋め戻し）

【場所】：長泉院の脇を流れる大刀洗川の上流と最乗寺の南東
方向との交差するあたり。明神岳を越える古来（奈良時代）
からの街道沿い。

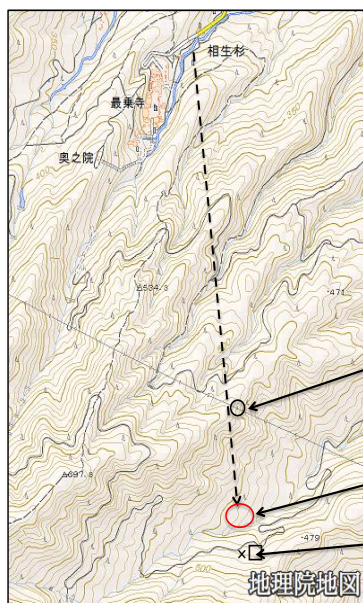
【出土物】：鉄滓（原料：砂鉄）・炉壁片・木炭片など
（鉄滓分析結果から技術水準がまだ低い時代）

【時期】：C14による年代決定：1300年前（昭和49.7.4.新聞報道）
平安時代から鎌倉初期の頃の鉄滓か。

しかし郷土資料館に行って確認したところ「鉄滓」はなく、学芸員の飯岡さんが調べてくれたところ仙台の金属博物館に寄贈したことまではわかりました。しかしその金属博物館自体は2003年に閉館となり、展示物は東北大学総合学術博物館に移管された模様ですが、実物があるかどうかは未確認です。

そのあと岩田修平さんに案内してもらい、タタラド遺跡を遠くに眺める場所までつれて行ってもらいました。長泉院の脇を通り、大刀洗川沿いの林道を明神岳に向かって上った所です。

蛇足ですが、大森氏は上杉禪秀の乱(1416-1417)の功績により、室町幕府の鎌倉公方から小田原・南足柄周辺の土地を安堵され、小田原を含めた相模国西部の覇権を握ることになりますが、すべてを同時に一括して安堵されたのではなく、岩原郷だけは鎌倉公方の直轄地になったのち、遅れて安堵されています。なぜそうであったのか。その理由として、当時の軍事重要物質である「鉄」が産出されていたとの事実から岩原郷だけは鎌倉公方の直轄地にしたかったのではないかと推察されます。しかし調べて見ると実質的に重要ではないとわかり、遅れて大森氏に安堵されたのではないかと考えられないこともありません。本当はどうであったのか、知りたいところです。



南足柄タタラド製鉄遺跡の場所

岩田修平さんに案内された場所(x)と推定される遺跡の位置。最乗寺の相生杉のほぼ真南の線と大刀洗川とが交差する大雄山側の斜面で、今は廃道状態の箱根越えの古道の近くにあるらしい。発見された鉄滓は南足柄郷土資料館にあるとのことであったが、訪ねたところ見ることがないとのことだった。□

- 写真に見える鉄塔口
- 林道(長泉院に至る) □
大刀洗川(狩川に合流)
- タタラド製鉄遺跡(この辺りらしい・大杉平か) □
箱根越えの明神岳からの古道の近くにある(廃道)
- クルマを止めたところ

2. 「早川の製鉄遺跡」

青木良一さんから資料を紹介して頂いた早川在住の青木友吉さん(1913-1995)の書かれた「早川の製鉄遺跡」によれば、『皇国地誌残稿』(1885)の「早川村」の古墳の項に「金堀沢には今もカナクソ(鉄滓)が多い」とあるので、1977年正月2日に実際に行って石垣山城跡下の金堀沢を掘ったところ、親指大の鉄滓を発見したのだそうです。その鉄滓を窪田蔵郎さんに調査してもらったところ、早川付近の川砂鉄か海岸砂鉄を用いて早川庄(牧)の人々の生産に結びついた古代の製鉄が行われていたのではないかと結論だったようです。

おわりに

奥出雲で古代から行われてきたような「たたら製鉄」が、古代の相模国西部地域でも地元の山砂鉄・川砂鉄などを用いて小規模ながら行われていたようです。

<参考資料>

- 1) 窪田蔵郎：「関東における古代の鉄と製鉄」：
(森恒一編：『「鉄」 日本古代文化の探求』、社会思想社 s49. 10. 30、p. 275)
- 2) 「新編相模国風土記稿 第2巻」：『大日本地誌大系 20』(雄山閣 平成 10. 4. 1)
- 3) 山口剛志：「平成28年度オダワラ市内の発掘調査」：(小田原史談会セミナー 2018. 8. 19 資料)
- 4) 山内登喜夫：「和鋼風土記 ~鉄の日本史 よみがえるタタラの世界」(角川選書 S50. 7. 25)
- 5) 「角川 日本地名大辞典」(角川書店 H3. 9. 1)
- 6) 青木友吉：「早川の製鉄遺跡」(「私の早川村史~青木友吉覚書」、青木良一編、1996. 12. 14 p44)